

## 処理の流れ

収集車によって集められたごみは、種類別に処理施設に運びこまれ、さまざまな資源へと生まれ変わります。

## 松任石川環境 クリーンセンター

野々市市、白山市、川北町で組織する白山野々市  
広域事務組合が運営する、一般廃棄物の処理施設

### 一般ごみ



### 燃える粗大ごみ



燃えないものを  
抜き出し破碎して

### ごみピット



ごみピットで  
貯留後、焼却  
します。30分  
に1回程度、  
一度に1.5ト  
ン程度のごみ  
を焼却炉に投  
入することが  
できます。

・焼却灰は  
セメント原料  
や埋立処分  
・焼却時の  
熱で発電電

### 燃えないごみ



破碎、選別し  
金属類はリサイ  
クルへ

### あきびん



県外の再生工場で  
再びガラス瓶に  
再生

## 事業者の処理工場

### 容器包装プラスチック



次ページで  
もっと追跡！  
破碎し紙くずなどと混合  
固形燃料「RPF」に  
再生

### あきかん



プレス機で圧縮して、  
ブロック化の後  
再生原料へ

### ペットボトル



破碎して  
チップ化した後、  
再生原料へ



あやめ町内会での回収の様子。手前の山は容器包装プラスチックのごみ袋。



運びこまれた燃えないごみ（松任石川環境クリーンセンター）



ペットボトルを手選別（株式会社北陸リサイクルセンター）

野々市で資源ごみの分別回収が始まっ  
たのは平成3年。資源化の推進に取り組  
む住民の協力のもとスタートを切りまし  
た。当時は11カ所だった回収場所が徐々に  
広がり、平成5年には52カ所と町内全域  
で分別回収が行われるようになりました。  
それから30年、特別だった分別は当たり  
前となり、私たちの中に根付いています。  
今回の特集では、資源ごみの行方に注目。  
分別されたごみはどう処理され、何に生ま  
れ変わるのでしょいか。  
その先を探ると、野々市の地域性が可能  
にしたリサイクルの姿が見えてきました。

## 追跡！

特集

## ごみの行方

一般ごみ袋の  
中に入っていた  
資源物  
約**22%**

### ごみを資源にできるのはあなた！

市で令和2年度に家庭から出たご  
みを調査したところ、一般ごみの中  
に、紙類、布類、容器包装プラスチ  
ック、ビン、缶など資源物のごみが約  
22%含まれていました。

混ぜるとごみですが、分けると資  
源になります。分別ルールを守って  
ごみを出しましょう。

### ごみの分別に迷ったら



### インターネット版 ごみの分別辞典

ごみとして出したいもの  
を検索欄に入力すると、それ  
が何ごみなのか表示され  
ます。

自分の住んでいる地区を  
設定すれば、次回収集日を  
教えてくれる機能  
もあります。

ごみ分別辞典  
二次元バーコード



問い合わせ 環境安全課 環境衛生係 ☎ 227-6052





# 野々市だからできる再生のカタチ

卵のパックやお菓子の袋が、今注目の固形燃料RPFへ



収集車で集められた容器包装プラスチック



破碎後、木くず類と混合



ベルトコンベアで貯蔵タンクへ



押出成形し完成したRPFの山

## 環境負荷が少ない再生燃料

野々市市では、容器包装プラスチックの処理を、資源化の専門業者である株式会社トスマク・アイに依頼しています。収集車で集められた容器包装プラスチックは白山市にある松任リサイクル工場へ運び込まれます。ここで行われているのは、RPF（アールピーエフ）という再生燃料へのリサイクル。RPFとは、Reuse Paper&plasticの略で、廃プラスチックや紙くず、木くず、繊維くずなどを原料として作られる固形の燃料です。廃棄物から作られること、石油などの燃料と比べ二酸化炭素を40%削減できることから、環境負荷が少ない燃料として注目が高まっています。松任リサイクル工場では、平成18年からこのRPFの製造を開始し、年間約15,000トンを生産しています。

石炭と並ぶ高い燃焼能力を持つRPFは、稼働に多くのエネルギーを必要とする事業所で利用が進んでいます。松任リサイクル工場で製造されたRPFは、県内の他、富山県、福井県などの製紙工場や旅館のボイラー燃料として活用されています。



RPF施設の全景。高温の成形機からは水蒸気が高く上がっています。

## 分別意識が高い地域だからこそ

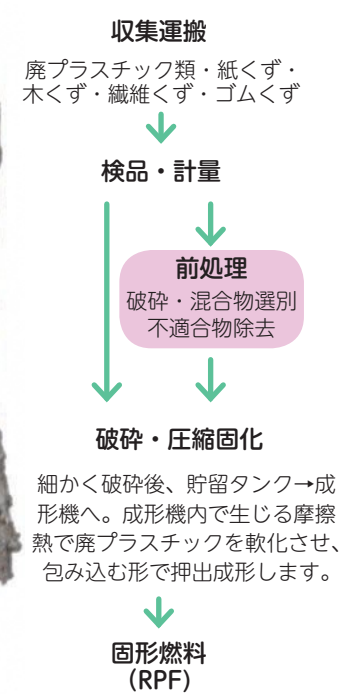
容器包装プラスチックであれば必ずしもRPFの原料になるわけではありません。その理由は汚れ。お菓子の塩分や食品の残りくずといった汚れは燃焼することで、RPFを使用したボイラー釜の内部を腐食させる原因となります。そのため原料化には正しくきれいな分別が重要であり、松任リサイクル工場でも、他の地域で回収された汚れがひどい容器包装プラスチック

の受け入れを断ったこともあるそうです。

容易ではない容器包装プラスチックのRPFへの利用ですが、松任リサイクル工場での処理を可能にしたのが、分別意識が高い野々市市の地域性。正しく分別され、きれいな状態のものを安定して収集できる環境だからこそRPFへのリサイクルが成立しています。

廃棄物からエネルギーへ。皆さんの日々の分別が資源のリサイクルを支え、持続可能な社会へつながっています。

## 松任リサイクル工場での固形燃料化の流れ



直径 30mm、長さ 60mm 以下に成形

## 一人一人の意識でごみは資源に変わる

野々市市から回収される容器包装プラスチックは、選別と洗浄がしっかりされていて皆さんの分別意識の高さが伝わります。松任リサイクル工場では、自販機のごみ箱から回収したペットボトルの処理も行っているのですが、困るのが飲み残しやたばこの吸い殻など異物が入ったもの。中身があるものは手作業でピッキングし、きれいにしてから処理しています。家庭でもお出かけ先でも分別を意識してもらえると嬉しいです。



株式会社トスマク・アイ 松任リサイクル工場 リサイクル部管理課 岡田 隆昭さん